

## “わんこそば”の魅力

かねこ あきひろ  
金子 晃浩

●自動車総連・副事務局長

こんな事を唐突に言えば、この紙面には相応しくないかもしれないが、私は以前より“わんこそば”的魅力に惹かれている。と言っても、単にそばが好物だということではなく、何故あんなにたくさん食べられるのか？という点に非常に興味が惹かれるのである。

岩手県花巻市では毎年わんこそば全日本大会が開催されており、今年2月の大会の優勝者は5分の制限時間内に213杯（＝かけそば約21杯分）のそばを平らげたそうだ。普通の成人男性がお店で食べる量でさえ平均して50杯程度（＝かけそば約5杯分）に及ぶそうである。もちろん“できるだけ多く”がそもそも目的であるから、普段よりも多くなるのは当然といえる。とは言え、実際に平らげるであろう大量のそばが始まれば目の前にあったとしたらどうだろうか。きっとその量の多さ故、食べる前から拒食気味になってしまうのではないか。

“わんこそば”的魅力は、目の前の一杯一杯は極少量なのに、食べ終わってみれば思いもよらない程の量になっている点にある。このことは、私たちの普段の活動において大いに参考になるところではないかと思う。目標があまりに大き過ぎると、どこからどう手をつけていいかわからず結果何も進まない。そんな経験はないだろうか。こうならないための秘訣が“わんこそば”なのである。大きい目標を達成するための段階的な目標を設定した上で、まずは実現可能な最も小さい“目標”から始め、それが達成できたら次は少し大きい目標に向け実行する。

それができたら更に・・・と、こうしたことをコツコツ積み上げていけば、自ずと大きな（最終）目標に達することができるのだと思う。

前置きが長くなつたが、現在、自動車総連では「今後の労働政策分野における対応について（「賃金の取り組みを踏まえた今後の共闘の枠組み」と「環境変化に対応した『働き方』について」の2テーマを設定）」と称した答申のとりまとめを進めている。とりわけ1つ目のテーマである「賃金の取り組みを踏まえた今後の共闘の枠組み」では、“この厳しい環境下においても、賃金を始めとする労働政策を着実に前進させていくための有効な共闘体制・枠組みを構築する”旨の大きな（最終）目標を掲げ、議論を重ねてきた。

これまでの論議を経て、まずは6つの少し小さめの目標に分類した上で、更にそれぞれに対して、より小さい（具体的な）目標とそのための対応とを記することで、実現に向けた道筋を示すものとした。私としては、これを実践し、1つ1つの小さな目標を着実に積み上げていけば、必ずや大きな（最終）目標に到達するもの信じている。（なお、答申内容の詳細に興味をお持ちの方がいらっしゃれば小職まで問い合わせ願いたい。）

日常の取り組みにおいても、一事が万事、掲げただけで何も活かされない画餅となぬよう、“わんこそば”を思い浮かべながら諸課題への対応にあたってみるのもいいのではないだろうか。